

# RYOBI

リョービ株式会社

## 2019年12月期 決算説明会資料

(証券アナリスト、機関投資家向け)

2020年2月17日



### 目次

1. 決算のポイント	P. 3
2. 2019年12月期 決算実績	P. 7
3. 2020年12月期 業績予想	P. 16
4. 今後の取組みと目標	P. 22

# 1. 決算のポイント



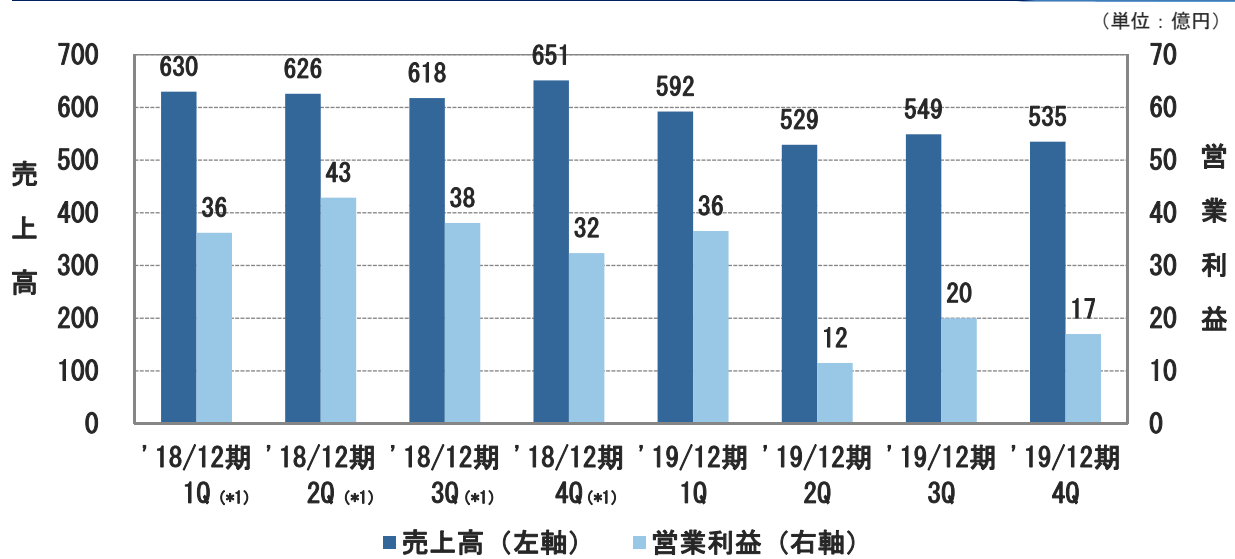
## 決算のポイント(1)

### 1. 決算のポイント

- **連結業績 減収・減益** (2018年12月期を2019年12月期実績の期間に合わせて比較した場合)
  - (ダイカスト)
    - 国内売上は中国向け製品の受注が減少
    - 海外売上は米国、英国、中国、タイ、全ての拠点で減少
    - 中国は減速に歯止めがかかりつつある兆候が見え始めたが、景気の減速は続いた
    - 事業全体で減収・減益
  - (住建機器)
    - 増収・増益 利益は原価低減等も加わり増益
  - (印刷機器)
    - 国内・海外ともに減収 主にアジア・米州向けの輸出が減少
    - 市場での厳しい価格競争の影響も加わり減益
- **2020年12月期予想は減収・減益**
  - 海外の減収影響や将来の増産を見据えた先行投資に伴う減価償却費の増加により減益

## 決算のポイント(2)

### 四半期別業績推移



- '19/12期 1Qより、中国経済減速による売上高減少の影響有
- '19/12期 2Qに上記影響が本格化
- '19/4に中国で増値税引下げ等の景気対策が実施されたが、自動車販売回復の兆しは見えず

\*1 '18/12期 各四半期は、'19/12期に合わせた期間の実績

5/41

## 決算のポイント(3)

### 今期実績と業績予想

(単位：億円)

	'18/12期	'19/12期		'20/12期	
	実績 (*1)	実績	前期差 (前期比) (*2)	予想	前期差 (前期比)
売上高	2,525	2,205	△320 (△12.7%)	2,133	△72 (△3.3%)
営業利益	150	85	△65 (△43.2%)	60	△25 (△29.4%)
経常利益	152	87	△65 (△42.6%)	59	△28 (△32.5%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	92	49	△43 (△46.5%)	41	△8 (△16.6%)

\*1 '18/12期 実績は、'19/12期に合わせた期間 (国内 12か月 ('18/1-12)、海外 12か月 ('18/1-12)) の実績

\*2 前期差・前期比は、'18/12期 実績との比較

6/41

## 2. 2019年12月期 決算実績



### 決算期変更

2. 2019年12月期決算実績

	2017年				2018年				2019年			
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
国内	'18/3期				'18/12期				'19/12期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
海外	'18/3期				'18/12期				'19/12期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q

### <調整後の2018年12月期>

	2017年				2018年				2019年			
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
国内	'18/3期				'18/12期 (調整後)				'19/12期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
海外	'18/3期				'18/12期				'19/12期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q

## 実績サマリー

(単位：億円)

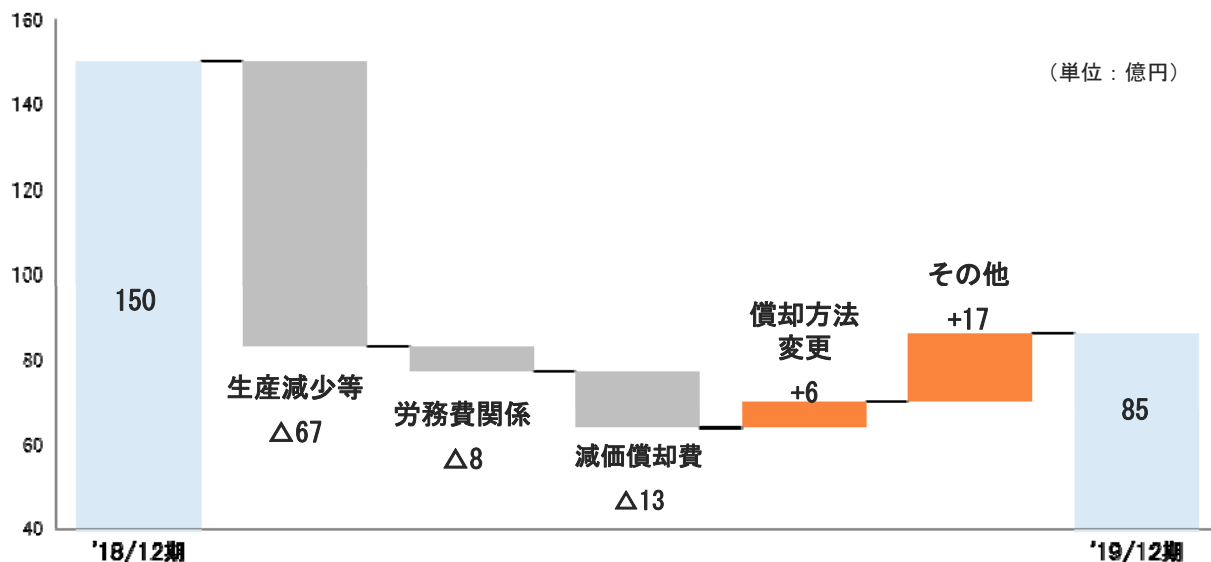
	'18/12期	'19/12期			
	実績 (*1)	実績	前期差 (前期比) (*2)	予想	業績予想差 (業績予想比)
売上高	2,525	2,205	△320 (△12.7%)	2,245	△40 (△1.8%)
営業利益	150	85	△65 (△43.2%)	81	4 (4.9%)
経常利益	152	87	△65 (△42.6%)	80	7 (9.2%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	92	49	△43 (△46.5%)	58	△9 (△15.3%)

\*1 '18/12期実績は、'19/12期に合わせた期間（国内 12カ月（'18/1-12）、海外 12カ月（'18/1-12））の実績

\*2 前期差・前期比は、'18/12期実績との比較

9/41

## 営業利益増減要因



- ダイカスト事業の国内・中国の生産高減少による影響
- 労務費、減価償却費の増加
- '18/4から国内の有形固定資産の償却方法を定率法から定額法に変更

## 為替レート（期中平均）

	'18/12期	'19/12期
米ドル	110.61円	108.99円
英ポンド	147.80円	138.85円
中国元	16.78円	15.80円
タイバツ	3.43円	3.51円

為替が1%円高に変動した場合の年間営業利益への影響額

米ドル	△80百万円
英ポンド	△10百万円
中国元	+20百万円

10/41

## セグメント別実績

(単位：億円)

	'18/12期	'19/12期			
	実績 (*1)	実績	前期差 (前期比) (*2)	予想	業績予想差 (業績予想比)
売上高	2,525	2,205	△320 (△12.7%)	2,245	△40 (△1.8%)
ダイカスト	2,134	1,859	△274 (△12.9%)	1,900	△41 (△2.1%)
住建機器	104	107	3 (2.8%)	105	2 (2.0%)
印刷機器	285	237	△48 (△16.9%)	240	△3 (△1.4%)
営業利益	150	85	△65 (△43.2%)	81	4 (4.9%)
ダイカスト	135	77	△58 (△43.2%)	73	4 (4.9%)
住建機器	4	7	3 (61.0%)	5	2 (39.4%)
印刷機器	10	1	△9 (△86.0%)	3	△2 (△52.0%)

\*1 '18/12期実績は、'19/12期に合わせた期間（国内 12カ月（'18/1-12）、海外 12カ月（'18/1-12））の実績

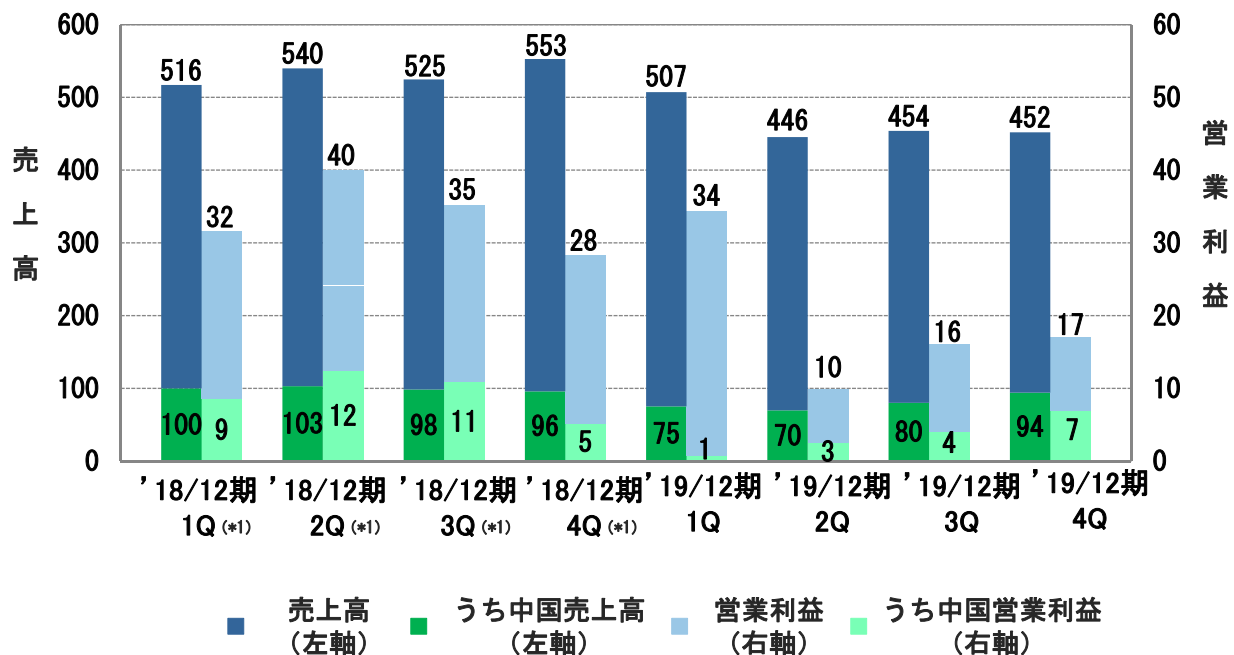
\*2 前期差・前期比は、'18/12期実績との比較

11/41

## ダイカスト事業

## 四半期別業績推移

(単位：億円)

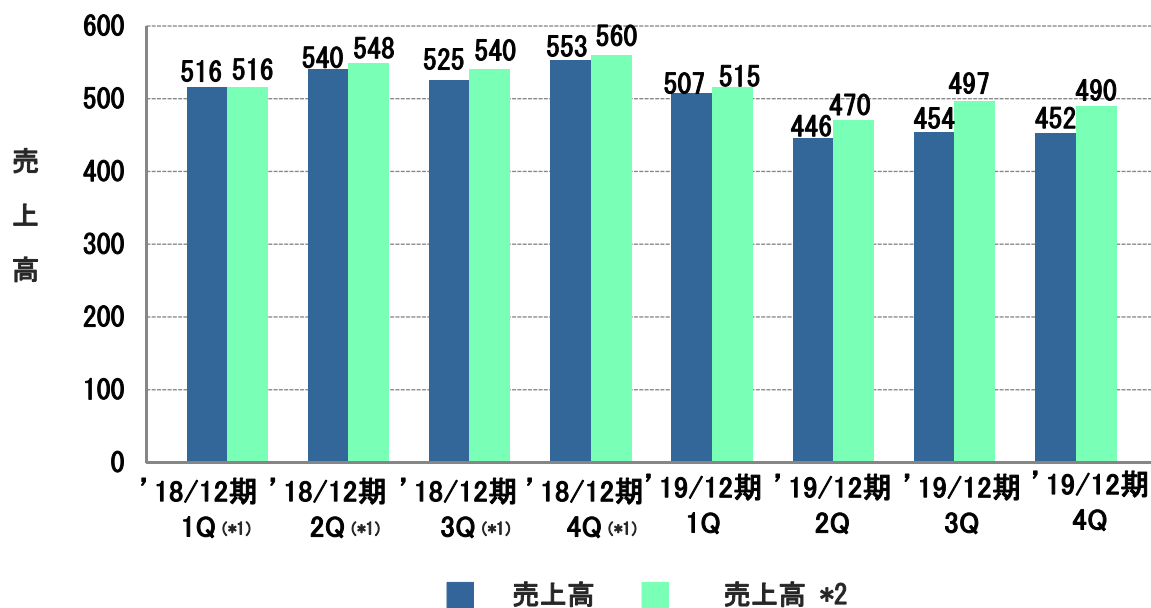


\*1 '18/12期 各四半期は、'19/12期に合わせた期間の実績

12/41

## 四半期別売上推移

(単位：億円)



\*1 '18/12期 各四半期は、'19/12期に合わせた期間の実績

\*2 '18/12期 1Qのアルミ材料単価で計算した想定売上高

13/41

## 貸借対照表

2. 2019年12月期決算実績

(単位：億円)

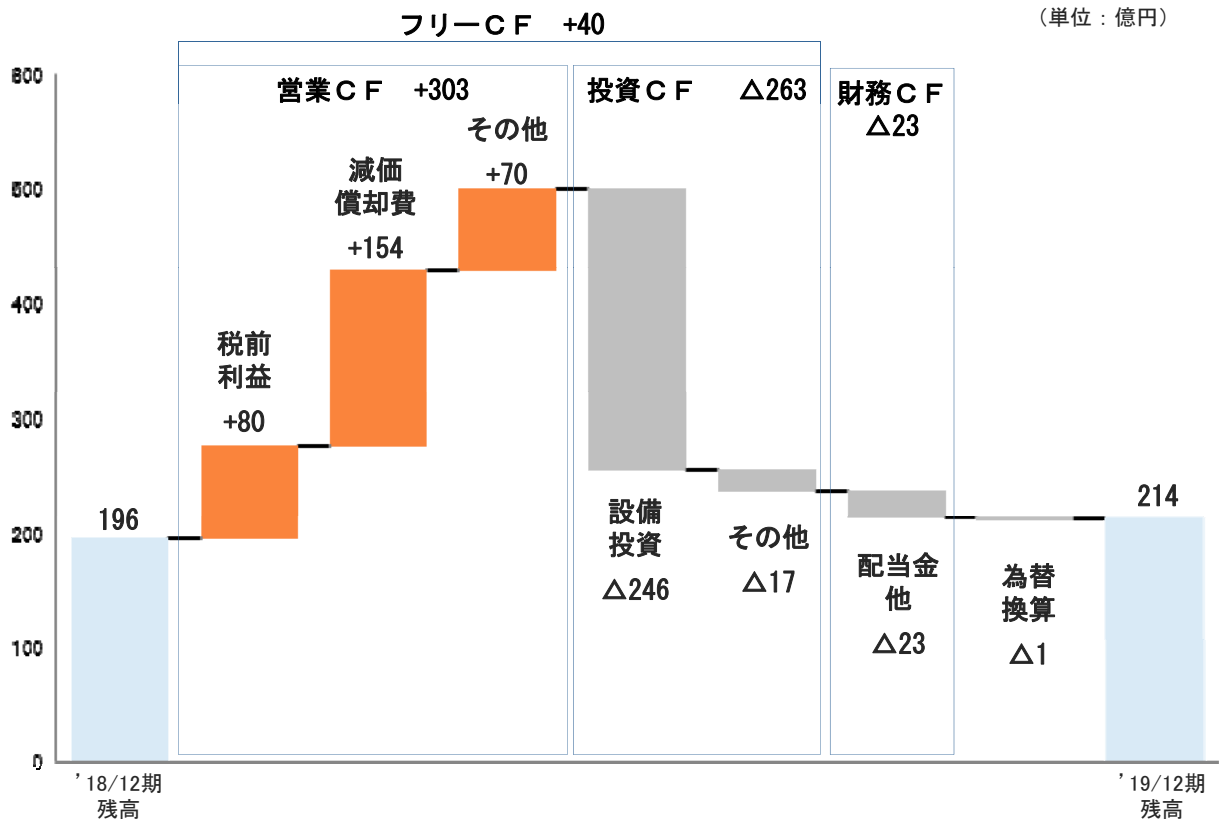
	'18/12期	'19/12期	増減	うち 為替影響		'18/12期	'19/12期	増減	うち 為替影響
<b>流動資産</b>	1,303	1,125	△178	△5	<b>流動負債</b>	1,009	900	△109	△2
現預金	208	225	17	△1	仕入債務	452	357	△95	△1
売上債権	584	412	△172	△2	短期借入金	323	325	3	△1
有価証券	8	8	△0	△0	その他	235	218	△17	△1
棚卸資産	469	452	△17	△2	<b>固定負債</b>	425	436	11	△1
その他	35	29	△5	0	長期借入金 (社債含む)	297	294	△3	△1
<b>固定資産</b>	1,387	1,506	119	△8	その他	129	142	14	△0
有形固定資産	1,123	1,216	93	△8	<b>株主資本</b>	1,148	1,181	33	1
無形固定資産	35	37	2	△0	その他の包括 利益累計額	19	24	5	△11
投資その他の 資産	229	253	24	△0	非支配株主持分	88	91	2	-
<b>繰延資産</b>	1	0	△0	-	<b>純資産合計</b>	1,255	1,296	41	△10
<b>資産合計</b>	2,690	2,632	△58	△14	<b>負債・純資産 合計</b>	2,690	2,632	△58	△14

- 売上高減少に伴い、売上債権・仕入債務が減少
- ダイカスト国内・海外（中国）を中心とした設備投資で有形固定資産が増加

為替レート（期末日）	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'18/12期	111.00円	140.46円	16.16円	3.41円
'19/12期	109.56円	143.48円	15.67円	3.63円

14/41

## キャッシュフロー増減



## 3. 2020年12月期 業績予想



# 業績予想

3. 2020年12月期 業績予想

(単位：億円)

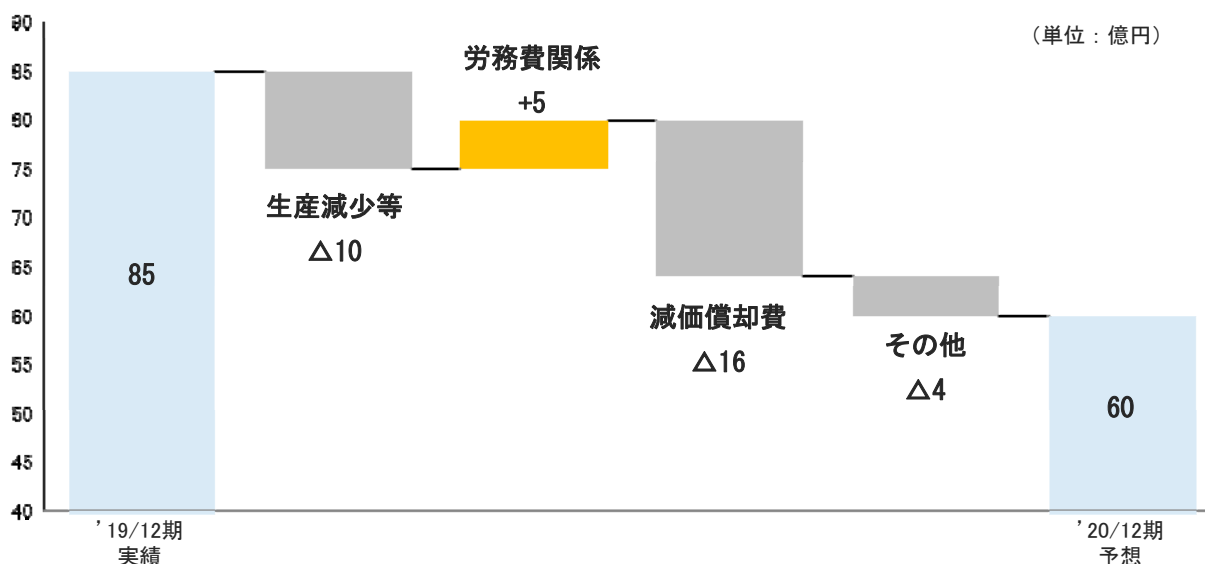
	'19/12期	'20/12期	
	実績	予想	前期差 (前期比)
売上高	2,205	2,133	△72 (△3.3%)
営業利益	85	60	△25 (△29.4%)
経常利益	87	59	△28 (△32.5%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	49	41	△8 (△16.6%)

17/41

## 営業利益予想増減要因

3. 2020年12月期 業績予想

(単位：億円)



- 中国・米国ダイカスト事業の生産高減少影響で減益
- 将来の増産を見据えた先行投資に伴う減価償却費の増加

### 為替レート

	'19/12期 (期中平均)	'20/12期 (予想)
米ドル	108.99円	110円
英ポンド	138.85円	140円
中国元	15.80円	15.5円
タイバーツ	3.51円	3.5円

為替が1%円高に変動した場合の年間営業利益への影響額

米ドル △80百万円  
英ポンド △10百万円  
中国元 +20百万円

18/41

## セグメント別業績予想

(単位：億円)

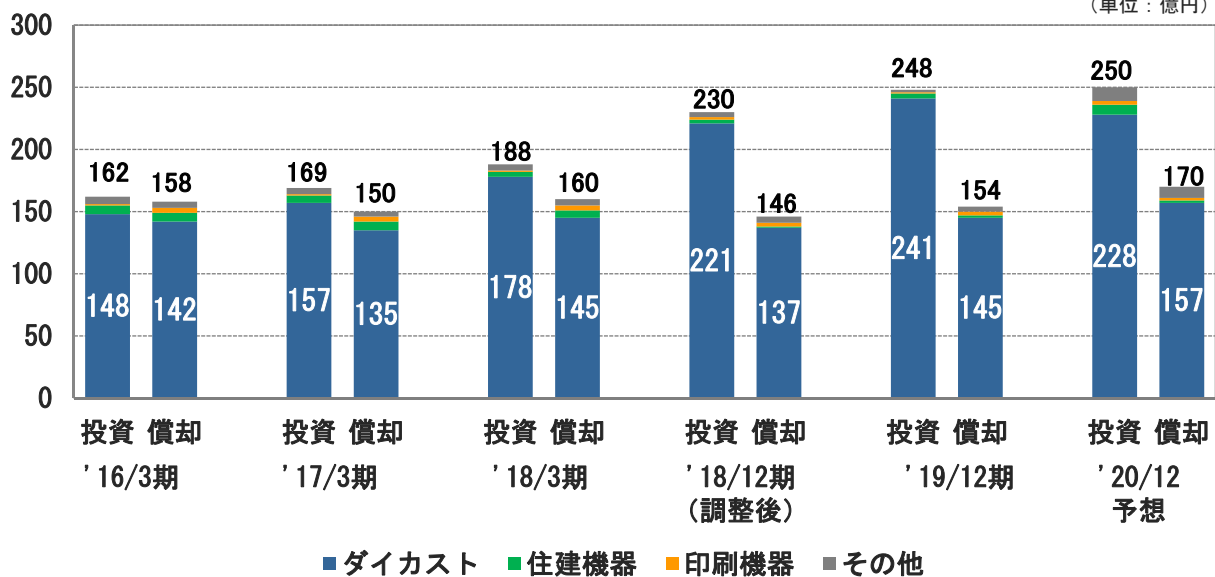
	'19/12期	'20/12期	
	実績	予想	前期差 (前期比)
売上高	2,205	2,133	△72 (△3.3%)
ダイカスト	1,859	1,778	△81 (△4.4%)
住建機器	107	105	△2 (△2.0%)
印刷機器	237	250	13 (5.7%)
営業利益	85	60	△25 (△29.4%)
ダイカスト	77	50	△27 (△34.7%)
住建機器	7	6	△1 (△13.9%)
印刷機器	1	4	3 (177.3%)

19/41

## 設備投資・減価償却費

## 設備投資・減価償却費の推移

(単位：億円)

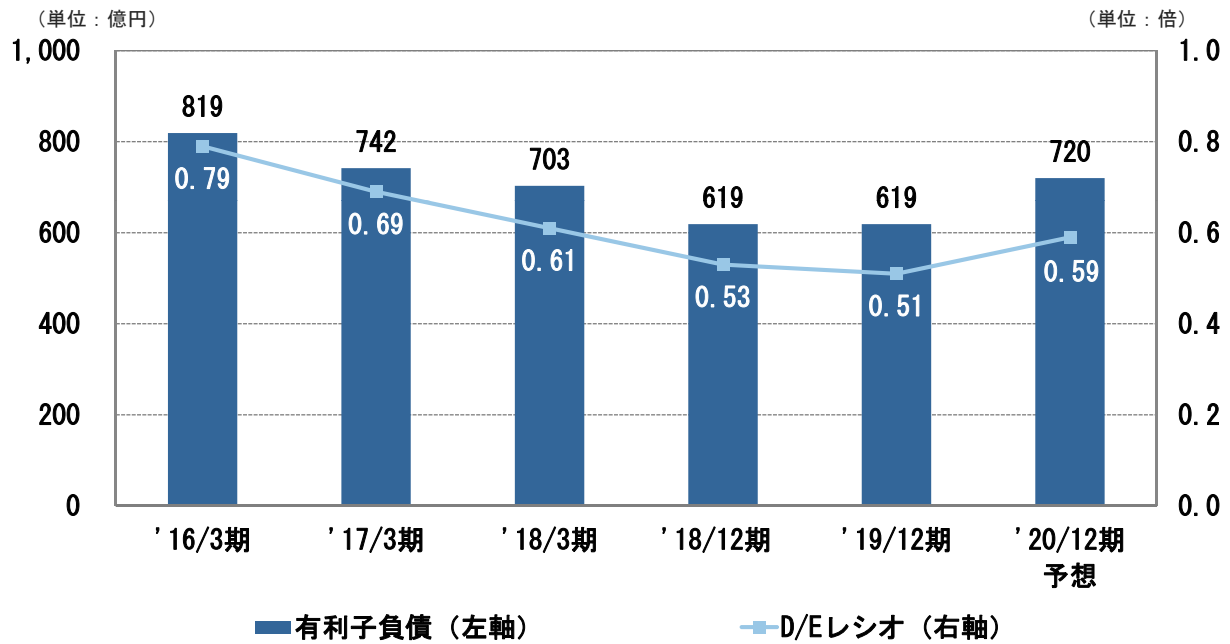


➤ '18年4月より、国内の有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更

20/41

## 有利子負債・D/Eレシオ

## 有利子負債・D/Eレシオの推移



	'16/3期	'17/3期	'18/3期	'18/12期	'19/12期	'20/12期 予想
借入金依存度 (有利子負債/総資産)	30.9%	28.2%	25.8%	23.0%	23.5%	26.6%

21/41

## 4. 今後の取組みと目標

## 事業戦略骨子

## &lt;企業理念&gt;

技術と信頼と挑戦で、健全で活力にみちた企業を築く。

## &lt;事業の戦略骨子&gt;

## ダイカスト事業

- 営業力の強化
- 技術開発力の強化（軽量化・材料置換対応）
- グローバル生産体制の強化
- 生産設備の自動化展開

## 住建機器事業

- 国内ドアクローザ市場でのシェア拡大
- 競争力のある商品開発
- 最適生産体制の推進

## 印刷機器事業

- 商品力の強化
- 販売・サービスの強化
- 製造力強化と生産性向上

23/41

## ダイカスト事業 – アルミ材料

## アルミとその他の材料・工法との比較

アルミダイカストは、軽量で複雑な形状を短時間に生産出来る成形方法です。そのため、アルミダイカストは、剛性の高い断面形状の設計・製造を可能としているばかりでなく、多くの部品の一体化や加工数の低減によるコスト削減も可能としています。

材料・工法	材料特性			注2 剛性		環境対応		コスト	
	軽さ	強さ	熱伝導度 注1	縦弾性係数	断面2次モーメント	リサイクル性	CO2原単位 注3	材料費	一体成形部品点数減
アルミニウム合金 ADC12 ダイカスト	○	○	◎	○	◎	◎	◎	△	○
鉄鋼 高張力鋼 780M Pa級	△	◎	○	◎	△	△	○	○	△
樹脂 (熱可塑性エンジニアリングプラスチック+60%GF強化) 射出成形品	◎	△	×	×	◎	×	○	◎	◎

注1：アルミダイカストは、軽く熱が伝わりやすい材料特性から発熱量の多い電動化部品に最適です。

注2：材料のたわみにくさ（剛性）は、材料特性（縦弾性係数）と断面形状（断面2次モーメント）で決まります。

注3：アルミダイカストは、2次合金を多用しているため製造の際に発生するCO2の量も非常に少なく、環境に優れる工法です。

24/41

## ダイカスト事業 — 当社の取組み

## 地域別取組み一覧

取組み内容	日本	アメリカ・メキシコ	中国	イギリス	タイ
営業力の強化	◎	◎	◎	◎	○
技術開発の強化	◎				
生産性の向上	○	○	○	○	○
グローバル生産体制の強化	◎	○	○	○	○
環境への配慮	○	○	○	○	○

25/41

## ダイカスト事業 — 当社の取組み

## 電動化・軽量化への取組み

## 次世代車向けの営業力の強化

(電動化・軽量化部品の営業活動推進)

- ・ 2019年12月期  
新規受注の内、次世代車向け比率 35% (売上高ベース)

## 次世代車向けの技術開発の強化

- ・ 軽量化部品  
ボディ・シャシー部品 (サブフレーム、リアエンドポストなど) の開発
- ・ 電動化部品  
バッテリーケース、eアクスルケース、モーターケースの開発

## 設備投資

- ・ 2020年12月期設備投資額  
新規品向け比率 55% (前期比18p増)  
電動化・軽量化部品向け比率 41%

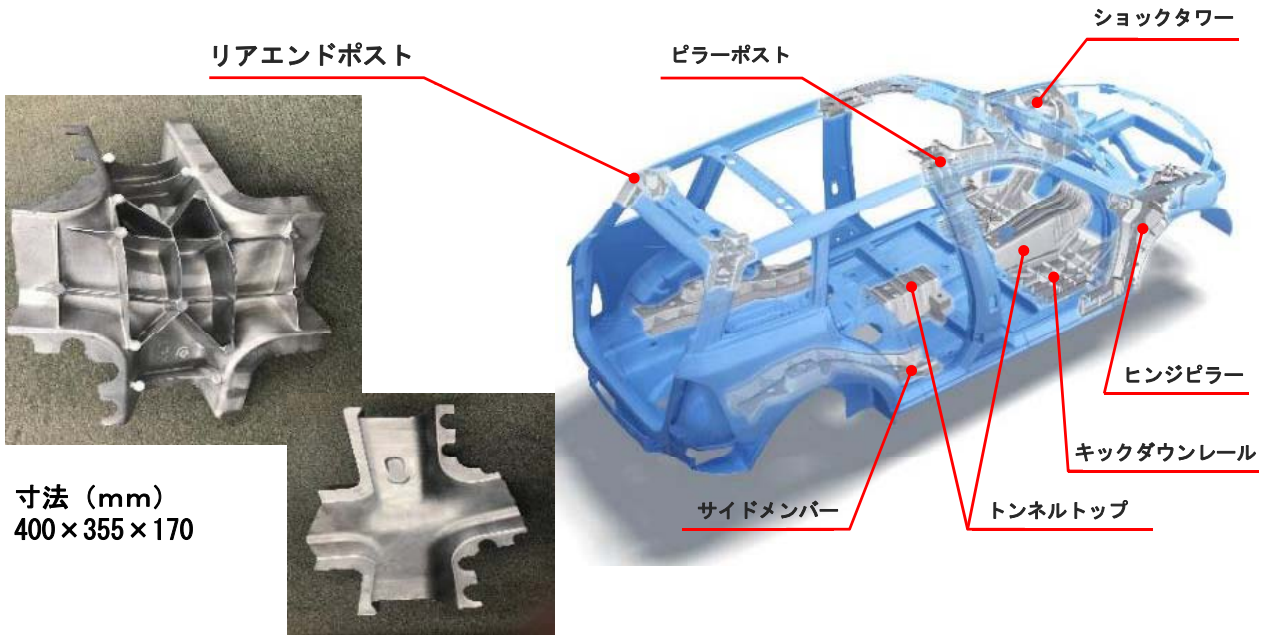
26/41

# ダイカスト事業 - 当社の取組み

## 電動化・軽量化への取組み

### ボディ・シャシーのアルミダイカスト化（開発中）

リアエンドポストのアルミダイカスト化



寸法 (mm)  
400×355×170



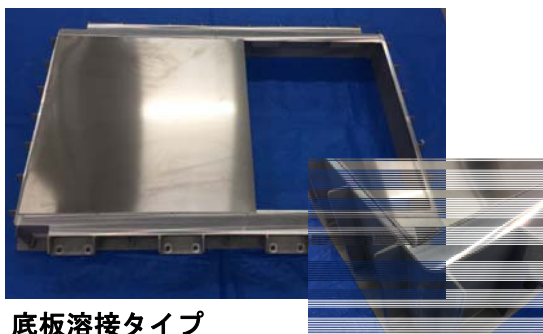
# ダイカスト事業 - 当社の取組み

## 電動化・軽量化への取組み

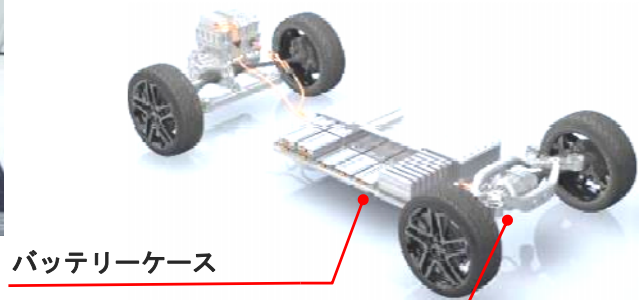
### バッテリーケース、eアクスルケースのアルミダイカスト化（開発中）



底板付一体型  
寸法 (mm)  
1,220×550×170



底板溶接タイプ  
寸法 (mm) 1,300×900×150

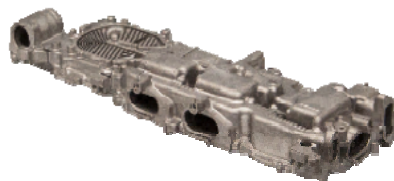


# ダイカスト事業 — 当社の取組み

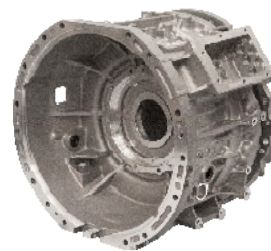
## 電動化・軽量化に貢献しているダイカスト使用部品



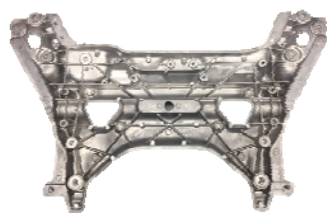
インバーターケース  
(電装部品)



PCUロワーケース  
(電装部品)



ハウジングクラッチ  
(HV車トランスミッション部品)



サブフレーム  
(シャシー部品)



トーコントロールアーム  
(シャシー部品)

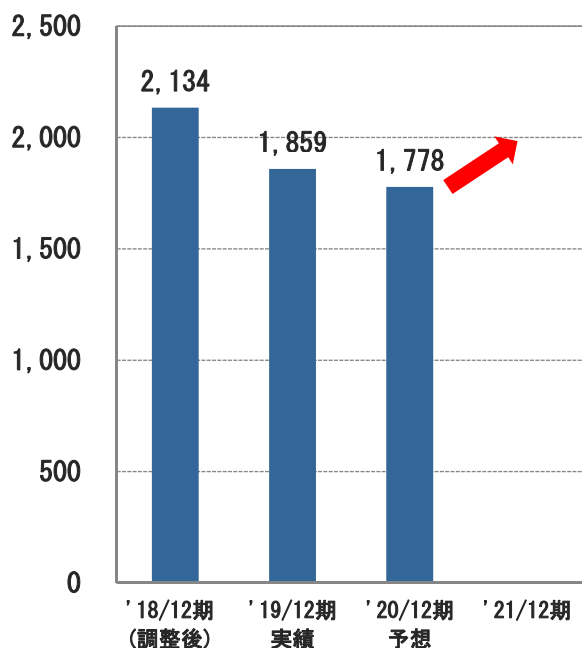


ショックタワー  
(ボディ部品)

# ダイカスト事業 — 売上高・設備投資

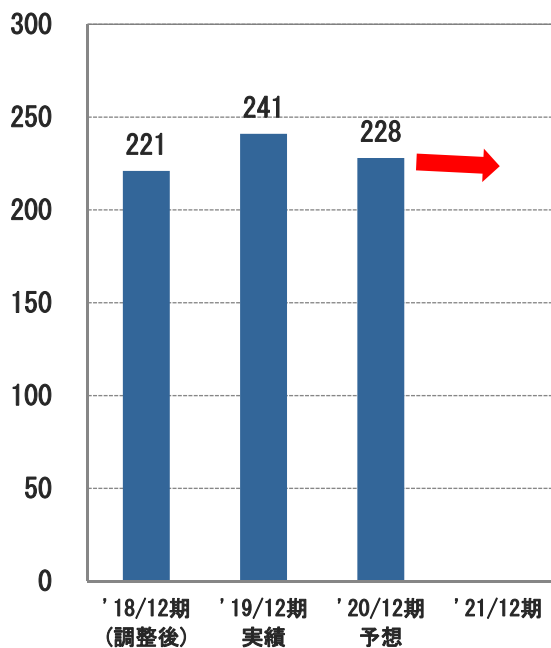
## 売上高の見通し

(単位：億円)



## 設備投資の見通し

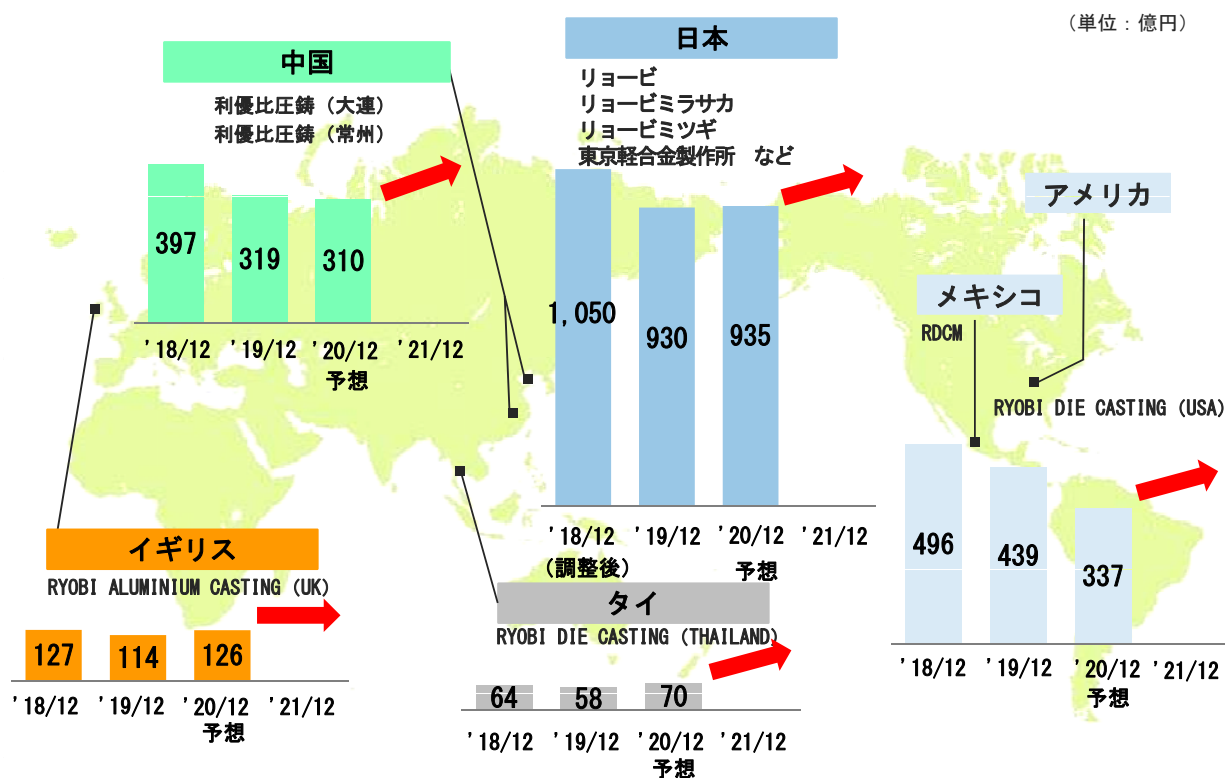
(単位：億円)



# ダイカスト事業 - グローバル展開

4. 今後の取組みと目標

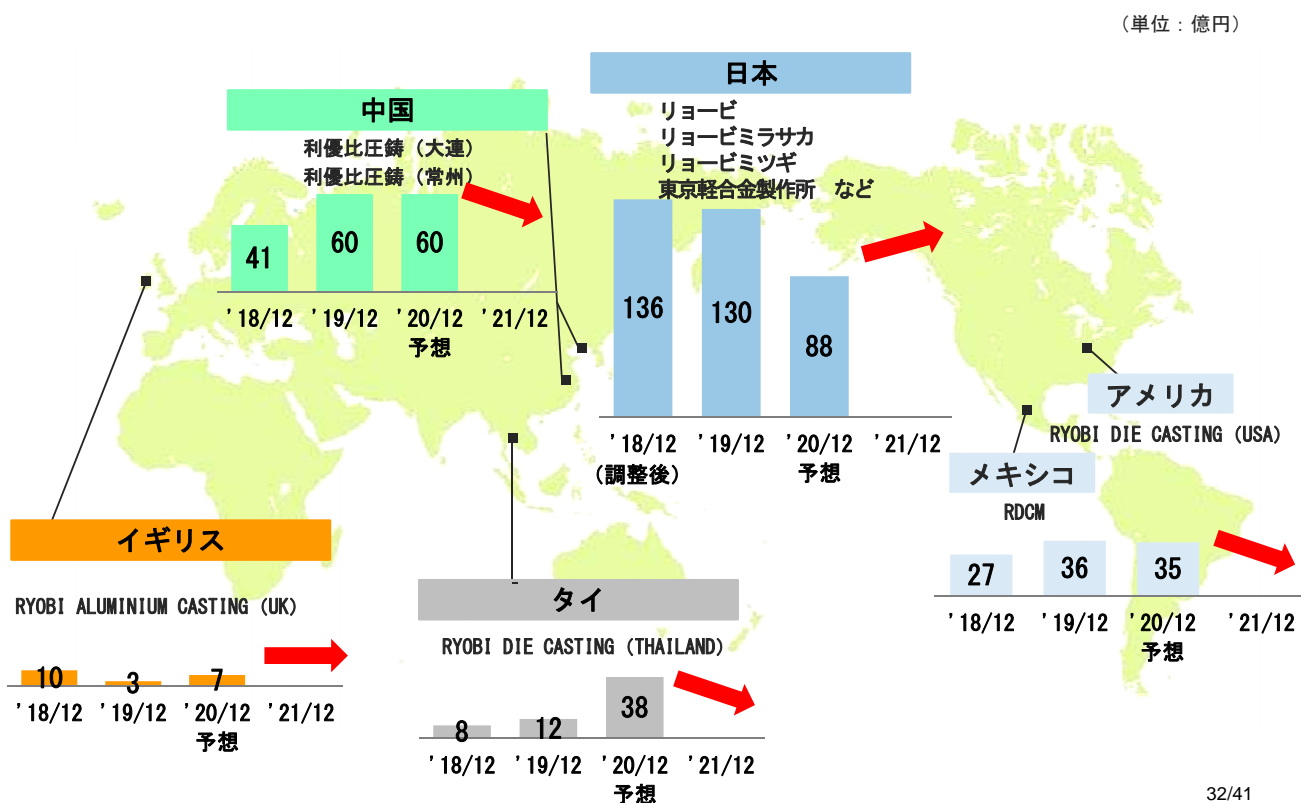
## 地域別売上高



# ダイカスト事業 - グローバル展開

4. 今後の取組みと目標

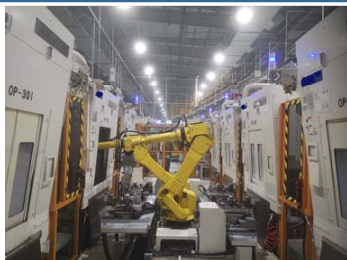
## 地域別設備投資実績・予想





## ダイカスト事業 - '19/12期 主な設備投資

## 利優比压铸 (大連)



投資内容	加工設備71台、自動搬送装置等		
設備投資金額	21億円	量産開始	'19/10月
製品	トランスミッション部品		

## リョービ 菊川工場 (旧 旭テックアルミニウム)



投資内容	鑄造機2500トンの2台、加工設備7台等		
設備投資金額	21億円	量産開始	'20/01月
製品	トランスミッション部品		

## リョービミラサカ



投資内容	熱処理工場建設 (床面積6,700㎡) T7熱処理ライン 等		
着工	'18/08月	竣工	'19/04月
設備投資金額	13億円	量産開始 予定	'21/11月
製品	ボディ部品		

33/41

## ダイカスト事業 - '20/12期 主な設備投資

## 利優比压铸 (常州)



投資内容	工場建設 (床面積15,000㎡) 鑄造機3500トンの1台、加工設備30台等		
着工	'19/08月	竣工予定	'20/06月
設備投資金額	34億円	量産開始 予定	'21/05月 (シャシー部品)
製品	シャシー部品 トランスミッション部品		

## リョービダイキャスト (タイランド)



投資内容	工場建設 (床面積8,600㎡) 鑄造機3500トンの1台、加工設備14台等		
着工	'20/01月	竣工予定	'20/10月
設備投資金額	23億円	量産開始 予定	'21/03月 (シャシー部品)
製品	シャシー部品、電動化部品		

## リョービダイキャスト (USA)



投資内容	加工設備12台、仕上設備、検査設備等		
設備投資金額	12億円	量産開始 予定	'21/01月 (シャシー部品)
製品	シャシー部品 トランスミッション部品		

34/41

## 住建機器事業 — 取組み

4. 今後の取組みと目標

### 事業環境

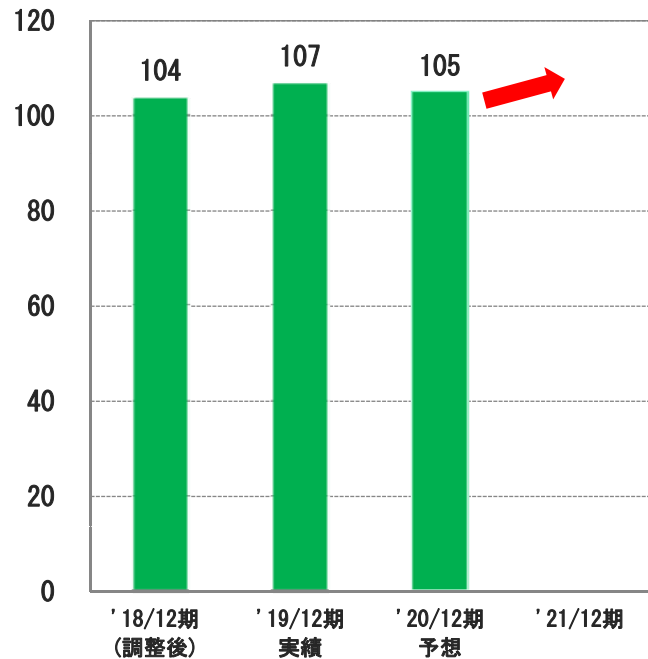
- ビル（非居住）着工床面積は横ばい、新設住宅着工戸数は年平均4%程度減少
- ドアクローザ市場、引戸クローザ市場は緩やかに縮小を続ける
- 同業他社のドアクローザビジネスからの撤退

### 主要な取組み

- 市場シェアの拡大（当社品の指名獲得、物件採用率・受注平米数の拡大）
- 海外販売基盤の強化
- 新商品開発による商品ラインナップの充実
- 電動開閉装置の市場開拓
- 自動化設備（組立・梱包工程）の導入

### 売上高の見通し

（単位：億円）



35/41

## 印刷機器事業 — 取組み

4. 今後の取組みと目標

### 事業環境

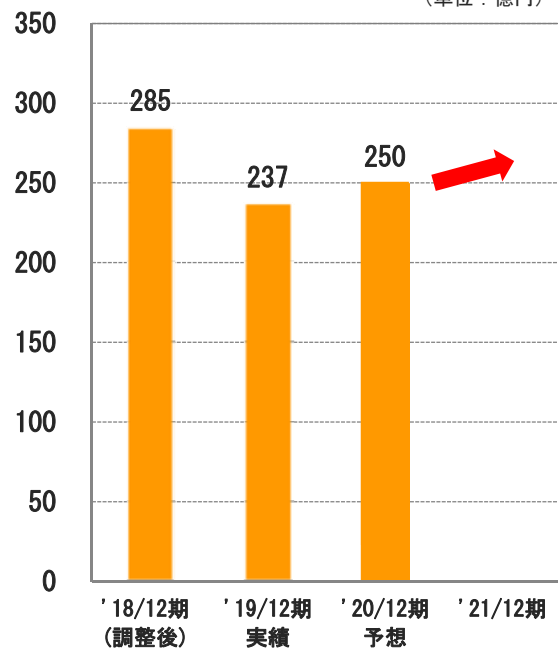
- オフセット印刷機市場は微減、デジタル印刷機市場は増加傾向続く
- 国内は人員不足、新興国は人件費高騰により自動化・省力化ニーズが高まりつつある
- 大型機の国内稼働台数が減少
- 印刷通販市場、パッケージ市場は堅調

### 主要な取組み

- drupa2020出展に向けた新機種の開発
- IoT, RMSウェアラブルを利用したサービスの充実による顧客満足度向上
- 海外販売サービスの強化（地域別）
- デジタル機の販売強化
- 製造コスト低減、工場IoT化による生産性向上
- 海外調達品の拡大

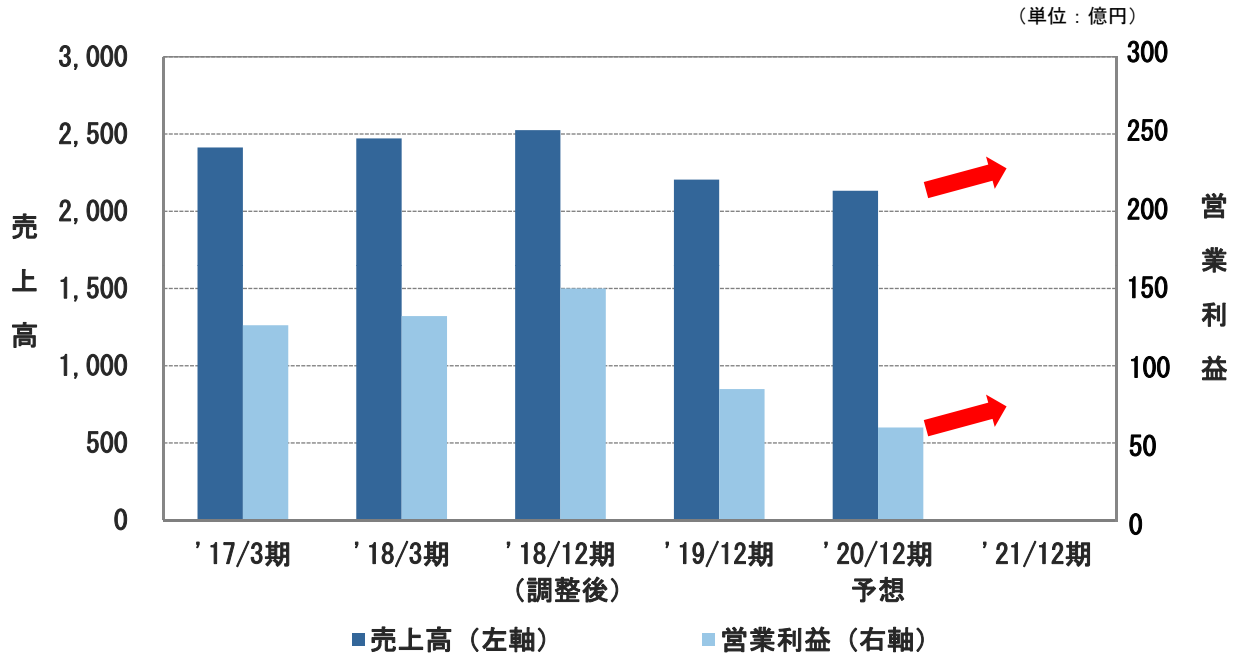
### 売上高の見通し

（単位：億円）



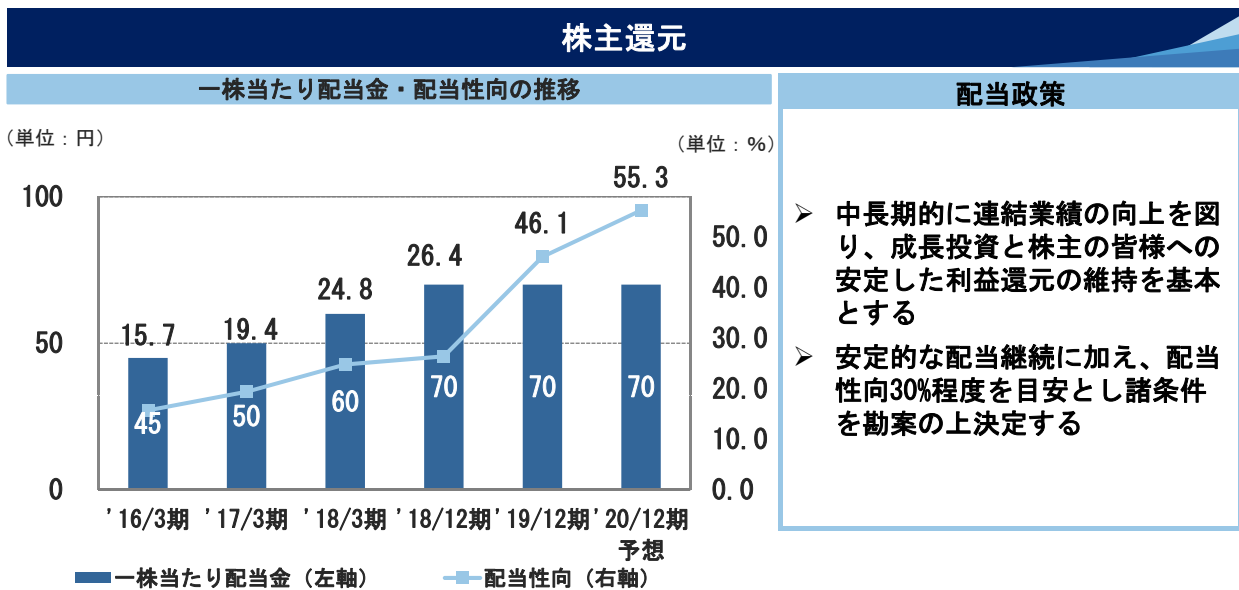
36/41

# 業績目標



	'17/3期	'18/3期	'18/12期 (調整後)	'19/12期	'20/12期 予想
営業利益率	5.2%	5.3%	5.9%	3.9%	2.8%

# 株主還元



	'16/3期	'17/3期	'18/3期	'18/12期	'19/12期	'20/12期 予想	'21/12期
一株当たり配当金	45円	50円	60円	70円	70円	70円	配当性向 30%程度
配当性向	15.7%	19.4%	24.8%	26.4%	46.1%	55.3%	

# SDGsへの取組み

重要テーマ	対応する 主なSDGs目標	具体的な取組み
地球環境 への配慮	   	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アルミダイカスト製品の拡販</li> <li>➢ CO2削減</li> <li>➢ 水資源の効率利用</li> <li>➢ 廃棄物削減</li> <li>➢ 有害物質削減への取組み</li> <li>➢ 省エネ・軽量化ニーズの対応</li> <li>➢ リサイクルの推進</li> </ul> 
技術革新		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新たな技術・素材による新商品開発</li> <li>➢ 自動化・省力化ニーズに対応した新商品・サービス</li> </ul>  
働き方改革 の推進	  	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ダイバーシティの推進</li> <li>➢ 多様な働き方の推進</li> <li>➢ 健康経営の推進</li> </ul> 
その他社会的 要請への対応	    	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 雇用の創出</li> <li>➢ 技術の継承</li> <li>➢ 法令遵守</li> <li>➢ 企業理念の徹底</li> </ul> 

# SDGsへの取組み

## 製品製造プロセスに着目した グリーンファイナンスによる資金調達

2020年  
1月31日付




借入金額：130億円


借入期間：7年間(2020年1月31日～2027年1月29日)


資金使途：アルミダイカスト製品製造に係る環境性能型の設備投資


- アルミダイカスト製品の製造において環境性能の高い設備を導入することや、アルミダイカスト製品が自動車の軽量化・燃費向上に貢献していることなどが評価
- 株式会社格付投資情報センター(R&I)より「R&Iグリーンボンドアセスメント」の最上位評価である「GA1」を取得
- グリーンローンとしての適格性についてR&I社より「セカンドオピニオン」を取得

### SDGsターゲットと関連する理由

- 

既存設備対比で環境性能が同等以上の設備を導入
- 

アルミダイカスト製品は自動車の軽量化・燃費向上に貢献
- 

アルミダイカスト製品は二次合金を100%使用しリサイクル性も高い
- 

CO2排出量、環境改善効果を開示



## 将来予測に関する注意事項

当資料には、当社の計画・戦略・業績等の将来予測に関する情報が含まれています。

これらの記載は、現在入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、これにはリスクおよび不確実な要素が含まれています。

当社の実際の行為、業績は、経済情勢、事業環境、需要動向、為替動向等により、将来予想とは大きく異なる可能性があります。

<無断複製・転載等を禁止します>